

此ノ儘聯合國側ガ負ケタナラバ米國モ共倒レニナリハセムカト云フ感ジテ米國側ハ持ツヤウニナツタノデアリマス。ソレガ爲ニ米國ノ爲政者等ハ何トカシテ聯合國側ヲ救フベク米國ガ參加シテ戰爭シナケレバナラスト云フコトヲ痛感シタノデアリマス。トコロガ戰爭ハ感情ト利益デアルト言フ位ノ米國人デアリマスカラ何トカ國民ノ感情ニ訴ヘ其ノ敵愾心ヲ煽ラナケレバ戰爭ニ參加スルコトハ出來ナイト思フノハ當然デアリマス。ソコドドウシタラ良イカト思案シテ居ル際ニ偶々以テ「ドイツ」側ガ非人道的ナリトノ非難ヲ蒙ルヤウナ無制限潜水艦戰ヲ宣言シタノデアリマス。茲ニ於テ米國側ハ直チニ奇貨措クベシト爲シテ「潜水艦戰」ト云フモノハ極メテ酷シイモノデアアル。斯ノ如キコトヲスル「ドイツ」人ハ人道ノ敵デアアル。吾々モ共々立ツテ此ノ人道ノ敵ヲ打倒シナケレバナラス」ト云フ風ニ國民ニ訴ヘテ、今迄ハ寧ろ親獨的デアツタ輿論ヲ一夜ニシテ親英的、親聯合國的ニ轉換サセ、サウシテ戰爭ニ參加シタノデアリマス。要スルニ「イギリス」側ガ制海權ノ爭奪區域ヲ北海ニ局限シ得タト云フ事實ガ米國ノ參戰ヲ促ガシタト云フコトニナルノデアリマシテ、「イギリス」側ガ海軍力ト云フモノガ米國ノ參戰ヲ促ガシタコトニナルノデアリマス。言ヒ換ヘマスレバ結局米國ノ參戰ニ依テ「ドイツ」側ハ非常ナ不利ニ陥リ遂ニ倒レルヤウニナツタノデアリマスカラ、此ノ世界戰爭ニ對シテ最大ノ役割ヲ演ジタノハ「イギリス」ノ海軍デアアル即チ制海權ノ威力デアルト云フ風ニモ斷定出來ヤウト思ヒマス。然シナガラ之ハ北海ヲ除イタ以外ノ海面ノコトデアリマシテ、北海ノ制海權ト云フモノハ之ハ掌握シタトハ申シマシテモソノ掌握タルヤ極メテ不完全デアツテ、實ニ北海ハ制海權爭奪ノ場面トナツテ居ルノデアリマス。其ノ制海權ノ爭奪ト云フコトニ於テハ「ドイツ」側ガ之ヲ奪取シヤウトシテ「ジアットランド」海戰ニ於テ失敗シタケレドモ、其ノ失敗ガ未ダ徹底的デナカツタ許リデナク其ノ爭奪タルヤ四年間續イタノデアリマス。即チ制海權ノ爭奪期間ト云フモノヲ局限シ得ナカツタノデアリマス。又其ノ場面ヲ狹クスルコトガ出來ナカツタト云フコトノ爲ニ「イギリス」側ハ國力ヲ消耗シ、遂ニ「ドイツ」側ハ倒レマシタケレドモ「イギリス」側ノ受ケタ傷痕モ亦極メテ大キク、ソレヲ恢復スル爲ニ十餘年間ヲ必要トシタト云フコトニナルノデアリマス。

マス。

斯様ニ考ヘテ參リマスルト、制海權ハ掌握シテ居ル、制海權ハモウ自分ノモノデアアル、モウコレ以上無理ヲシナクテモ宜シイト云フ風ナ「イギリス」側ノ觀念ハ此ノ制海權問題ニ對スル認識不足ノ點カラ出發シテ居ルノデハナイカト私ハ考ヘルノデアリマシテ、此ノ制海權問題ニ就テハ充分ニ吾々ハ認識ヲ深クシテ置ク必要ガアラウト思ヒマス。將來日本ノ海上作戰ハドウ云フコトニナルカト言フニ之ハ如何ナル國家トドウトハ申シマセケレドモ兎ニ角現在ノ情勢カラ推察致シマスルト、日本ガ持ツテ居リマスルトコロノ領土領海ニ向ツテ敵艦隊ガ進出シテ來テサウシテ日本ノ既ニ持ツテ居ルトコロノ制海權ヲ奪取セントスル場合ニ初メテ海戰ト云フモノガ起ルノデアリマスカラ、私ハ斯様ナ敵艦隊ヲ擊滅スル、制海權ヲ奪取スル主人公デアルトコロノ、該行動ノ根幹デアルトコロノ敵艦隊ヲ擊滅スルト云フコトガ我海軍國防ノ最大目的デナケレバナラスト思ヒマス。從ツテ敵艦隊ヲ擊破スルコトニ寄與シナイトコロノ作戰ト云フモノハ一切ヤルベキモノデハナイト私ハ考ヘル。若シヤツタナラバ必ズヤ原則違反ヲ敢テシタトコロノ禍害ヲ被ラナケレバナラス。時イタ種ハ自分ガ刈ラナケレバナラスト云フコトニナルノデハナイカト思フノデアリマス。要スルニ我海軍ノ目的ハ敵艦隊ノ擊滅デアリマス。サウシテ既ニ吾々が掌握シテ居ルトコロノ制海權ニ對スル敵ノ爭奪作戰ヲ時間トニ於テモ將又區域ニ於テモ之ヲ極端ニ制限スルト云フコトノ唯一ノ目的ガ吾々ニ課セラレテアルノデハナイカト私ハ考ヘルノデアリマス。

第二ニハ海戰術ノ變遷デアリマス。「ジアットランド」ノ海戰ハ一万乃至二万碼ノ距離ニ於テ行ハレマシタガ、沈没シマシタトコロノ艦船ハ巡洋艦ヤ驅逐艦ハ別トシマシテ主力艦ハ總テ火藥ガ誘爆ヲ行ツタ結果デアリマス。砲戰ガ與ヘタトコロノ損害ダケデハ主力艦ハ一切沈没スル程ノ大損害ヲ蒙ツテ居ラヌノデアリマス。最モ防禦力ノ不足シテ居ツタトコロノ「イギリス」ノ巡戰「ライオン」デストラ十二發ノ重砲彈ヲ受ケマシテモ戰團航海ニハ差支ナイト云フ状態デアリマシタ。「デルフリッゲル」及「サイドリッツ」ハ何レモ二十餘發ニ上ル多數ノ大口徑砲彈ヲ被ツテ居ルノニ拘ラズ兎モ角モ

艦隊ト伍シテ根據地ニ引上ゲテ居リマス。之ハ海戰史上特筆ニ値スル事柄デアリマス。

ソコデ古來海戰術ハ如何ナル變遷ヲ遂ゲタカト申シマスニ本題ニ入ルニ先ダチ艦船兵器自體ノ進歩發達ヲ概説スル必要ガアリマス。考ヘテ見マスルト艦船ハ之ヲ組成スル材料上木船時代カラ鋼船時代ニ進ミ將來ハ益々多ク輕金屬ガ使用サレマセウガ先ヅ當分ノ間ハ鋼船時代ノ延長デアリマセウ。ソレカラ運動力カラ見マスルト機走時代、機走時代ト進ミ其ノ機走時代ガ蒸氣機關時代及内燃機關時代ト分レヤウト思ヒマス。内燃機關ハ近來非常ナ勢デ蒸氣機關ノ領分ヲ侵シツツアリマスガ蒸氣機關ノ軍用價值ハ容易ニ没却シ得ルモノデアリマセウ。ソレカラ又艦船ハ日露戰爭直後ヲ契機トシテ小艦時代カラ大艦時代ニ進ンダト思ヒマス。尙又航空機ノ出現ハ海戰術ニ非常ナ影響ヲ及ボシテ居リマスガ「ジァットランド」海戰ヲ轉換期トシテ航空時代ガ始マリソレ迄ハ大體ニ於テ前航空時代ト申スコトガ出來ヤウト思ヒマス。却說ソレデハ海戰術ノ變遷如何ト申シマスニ艦船兵器ノ進歩ニ依リ戰闘距離モ増進シ戰術モ變化シタコトハ確カデアリマスガ其ノ間自ラ共通ノ法則ガアツタヤウニ觀察セラル、ノデアリマス。即チ遠距離戰ハ主トシテ運動力ノ破壊シ合ヒデアリ近距離戰ハ決戰デアリマス。木船時代ノ機走時代ニ於テハ戰闘距離モ短ク敵ニ極メテ接近スル迄ハ戰闘ハ行ハレズ先ヅ機ノ折リ合ヒヤツテ對手ノ運動力ヲ奪ヒソレカラ艦内ニ闖入シマシタ。ソレカラ帆走時代ニ於テハ遠距離戰デハ砲撃ヲ加ヘサウシテ帆ヲ破ツタリ帆橋ヲ倒シタリシテ運動力ヲ破壊シ得タトコロデ近接シ續着シテ斬込ム。之ハ「ネルソン」時代ニ至ル迄ヤツテ居ルノデアリマスソレカラ鋼船時代ノ汽走時代ニナリマスルトサウハ行キマセスカラ、ソコデ先ヅ遠距離戰デ砲撃ヲ加ヘ、更ニ近寄ツテ砲撃、雷撃ニ依ツテ止メヲ刺シ撃沈スルト斯ウ云フコトニナツタノデアリマス。トコロガ次デ世界戰爭時代即チ「ジァットランド」海戰當時ハ大艦時代ノ前航空時代デアリマスガ此ノ時代ニ於テハ砲撃ニ依ツテソレガ偶々敵ノ火藥庫ニ點火シ一瞬ニシテ大艦ヲ爆沈セシムルニ至ツタト云フコトガ謂ヘヤウト思フノデアリマス。將來ハドウナルカト言ヒマスト距離カラ言ヘバ遠距離戰、遠距離戰、近距離戰ト分チ得ルノデアリマスガ先ヅ專ラ飛

行機ニ依リ主トシテ敵ノ航空兵力ノ破壊スルト同時ニ敵主力艦ノ運動力ヲ奪フコトヲ目的トシマスルトコロノ雷爆撃ガ遠大距離デ行ハレルダラウト思フノデアリマス。此ノ遠大距離戰ニ於ケル航空兵力ノ使用ト云フモノハ、之ハ一ツノ大砲ト思ヘバ宜シイノデアリマシテ此ノ大砲タルヤ彈着距離ガ二百哩、三百哩ノ非常ナ遠距離ニ上リ而モ彈丸ハ進ムダケデナク自身ガ敵ヲ發見シテ命中スル。サウ云フ一ツノ大砲ガ出來タト斯ウ云フ風ニ考ヘルト非常ニ推論ガシ易イヤウニ思ヒマス。ソレカラ遠距離戰次デ近距離戰ガ行ハレルノデアリマスガ兵器ノ効力如何ニ依リマシテハ三萬米デモ決戰ガ行ハレルコトガアリマセウ。要ハ敵ニ止メヲ刺シ得ルカ否カデアリマシテ距離ノ大小デハアリマセウ。然シナガラ「ジァットランド」海戰ノ實績ニ鑑ミマシテモ明瞭デアアル如ク一種類ダケノ兵器ヲ以テ攻撃ヲ加ヘタノデハ敵主力艦ニ致命の大損害ヲ與ヘルコトハ出來マセウ。將來ハ各國主力艦ノ防禦力モ大キクナルニ相違アリマセウカラ各種兵器ノ同時攻撃ガ必要デアリマス。只今迄申シタコトハ頗ル複雑多岐ニ亘ツテ居リマスガ今之ヲ表デ示セバ大體左ノ通デアリマス。

鋼船時代	木船時代		艦船ノ材質	運動力ノ性質	代表的海戰	遠距離戰 (運動力ノ破壊)	近距離戰 (決戰)		
	機走時代	帆走時代						舷側擦過	艦内闖入

鋼船時代	機走時代	帆走時代	艦船ノ材質	運動力ノ性質	代表的海戰	遠距離戰 (運動力ノ破壊)	近距離戰 (決戰)
代時走機	代時走帆	代時艦大	代時艦小	舷側擦過	艦内闖入	砲撃	砲雷撃
「ジァットランド」	「トラファルガー」	黄海、日本海	砲	砲	砲	砲	砲
但シ之ノミニ依リテハ大艦ニ對シテ致命的打撃ヲ與ヘ得ザルモ偶々以テ砲撃ノ結果火藥庫ニ點火一瞬ニシテ之ヲ爆沈セシムルニ至ル。	一、先ヅ遠距離ニ於テ飛行機ニ依ル雷爆撃ヲ行フ。	二、次デ遠距離ニ於テ砲雷爆撃ヲ加フ。	砲雷撃	砲雷撃	砲雷撃	砲雷撃	砲雷撃

第三ニハ輕快部隊ノミヲ以テスル所謂漸減作戰ナルモノガ實施可能デアるか或ハ不可能デアるかト云フ問題ニ就テハリマス。此ノ所謂漸減作戰ノ實施ガ困難デアルト云フコトハ「シアットランド」海戰迄實施サレマシタ「ドイツ」海軍ノ作戰ガ遺憾ナク之ヲ立證シテ居ルト思フデアリマスガ而モ該作戰ニ於テ輕快部隊ノ兵力ヲ無益ニ消耗シタ結果「シアットランド」海戰ニ於テハ非常ニ輕巡ノ不足ニ苦シミ作戰上極メテ不利ニ陥ツタ譯デアリマス。殊ニ吾々ノ想定敵國ガ恰モ獅子ガ兎ヲ打ツニモ全力ヲ用ヒルガ如ク常ニ全兵力ヲ集結シテ正々堂々挑戰シテ來マヌルコトニナリマス。「ドイツ」流ノ所謂漸減作戰ト云フモノハ益々以テ實施困難ニナツテ來ハシナイカト思フデアリマス。世界戰爭ノ劈頭「ドイツ」側ハ世界各地ニ分散シテ居リマシタ多數ノ巡洋艦ヲ活用シテ盛ンナ通商破壞戰ヲ行ヒ聯合國側ニ甚大ナル衝擊ヲ與ヘ延テハ北海ノ海軍情勢ニ大ナル變化ヲ捲起サセタノデアリマスガ「ドイツ」側ハ遂ニ此ノ虛ニ乗ズルコトガ出來ナカッタノデアリマス。私ハ何モ輕快部隊ヲ以テ敵ニ攻撃ヲ加ヘルノガ惡イト申スノデアリマセヌ。輕快部隊ガ敵ニ攻撃ヲ加ヘ之ニ損害ヲ與ヘタナラバ主力部隊ハ時ヲ移サズ敵ニ本攻撃ヲ加ヘ敵ニ先ヅテ獲得シタコロノ局部的勝利ヲ擴大シ決勝ヲ得ルコトニ努ムベキデアルト言フデアリマス。之ハ兵術ノ原則デアリマス。何百哩ノ彼方デ輕快部隊ガ敵ヲ攻撃シテ居ルニ主力部隊ハ根據地内ニ蟄居シテ居ルト云フノデハ「ドイツ」海軍ノ轍ヲ踏ムコトニナリマス。斯シテ彼等ハ次カラ次ヘト大小多數ノ巡洋艦ヲ失ツテ行ツタノデアリマス。ソレ故ニ苟モ漸減作戰ニ依ルニ非ザレバ想定敵國ノ斯ノ如キ大兵力ニ對抗スルコトハ日本トシテハ出來ナイデアラウカト考ヘルヤウナコトガアリト致シマスレバソレハ如何ニモ弱氣ノ至デアリマシテ「シエーア」ニシテモアレダケノ兵力ヲ持テバノ優勢ナ「イギリス」艦隊デモ適當ナ手段ヲ以テスレバ之ニ對抗出來ル、否敵ヲ擊滅出來ルト云フ信念ヲ持ツテ始メカラ立場ヲ換ヘテ、恰モ上杉謙信ガ八千ノ兵ヲ以テ二萬ノ武田勢ヲ引受タニ拘ラズ妻女山上懸々秋月ヲ眺メナガラ琵琶ヲ彈ジテ居ツタヤウナ心境デヤツタナラバ局面打開ノ途ハイクラデモアツタラウト思フデアリマス。果シテ然ラバ吾々ハ如何ニスベキカト言フコトハ後段ニ於テ若干論ジ度ト思ヒマスガ、

要スルニ吾々ハ弱氣ノ作戰ハ探ラナイ。強氣ノ作戰ヲ探ル。ドコ迄モ正々堂々敵ヲ擊滅スル。漸減作戰デナケレバ敵ヲ擊滅シ得ナイトカ或ハ夜戰デナケレバ敵ヲ擊滅シ得ナイトカ云フヤウナ弱音ヲ吐カズシテ如何ナル場合ニ敵ト對抗シテモ之ヲ擊滅シ得ルト云フ所謂精神の軍備ナルモノガ最初ニ於テ必要デアリソレカラ又正々堂々作戰ガヤレルダケノ軍備ハ是非共齊整シナケレバナラスト私ハ思フデアリマス。

第四ニハ航空機ヤ潜水艦ノ發達ニ依テ戰艦ハ海戰ノ主兵タル其ノ價值ヲ低下セズヤト云フ問題デアリマス。「シエーア」ハ「シアットランド」海戰ノ結果以前ニモ増シテ「主力艦ハ海上權力ノ基礎デアル」コトヲ確信シタソウデアリマスガソレハ抑々何故デアリマセウカト申スニ勿論攻防二方ガ他ノ如何ナル艦船ヨリモ強大デアラカラデアリマス。ソレ故ニ航空機及潜水艦ガ發達シテモ其ノ地位ヲ脅カサレナイ爲ニハ攻防二力ニ於テ航空機ヤ潜水艦ヨリモ強大デナケレバナリマセヌ。世界戰爭中「ドイツ」ノ主力艦ハ潜水艦又驅逐艦カラ雷撃ヲ受ケテモ沈没シナイコト又「イギリス」ノ主力艦ハ單艦トシテ潜水艦カラ雷撃サレタコトハナカツタケレドモ艦隊ヲ編成シテ居ル際ニハ「ドイツ」潜水艦ハ之ニ對シテ雷撃ヲ加フルコトスラ出來ナイコトヲ如實ニ證明シタ許リデナク「イギリス」艦隊ノ儼然タル存在ガ延テハ「ドイツ」潜水艦戰ヲ失敗ニ終ラシメタノデアリマシタ。換言シマスレバ世界戰爭ハ潜水艦ガ出現シタ爲ニ戰艦ノ地位ハ何等ノ影響ヲ受ケナカツタコトヲ實證シタノデアリマス。私ヲ以テ觀ルナラバ潜水艦ハ單獨デ行動スルヨリモ戰艦ヲ中心トシタ艦隊ニ隨伴シ之ト協同動作シタ方ガ遙ニ大ナル成果ヲ收メ得ルノデアリマス。航空機ニ就テモ同ジ論理ガ適用出來ルノデアリマス。若シ將來ノ戰艦ガ非常ニ多數デナイ限り如何ナル大型飛行機ノ攻撃ヲ受ケテモ致命傷ヲ受ケズ又飛行機ハ單獨デ行動スルヨリモ戰艦ヲ中心トシタ艦隊ノ一部トシテ行動シタ方ガ遙ニ效果的デアルト云フコトヲ實證スルナラバ戰艦ノ地位ハ航空機ノ發達ニ依テ微動ダモスルモノデアリマスマイ。トコロガ斯様ニ申シマスソナ戰艦ガ出來ルカト云フコトガ問題ニナル譯デアリマスガ勿論ソレハ可能デアリマス。單艦トシテハ斯様ナ能力ノアルモノヲ建造シナケレバナラスト同時ニ艦隊

トシテモス様ナ能力ヲ持つ如ク編成サレナケレバナラヌデアリマス。

第五ニハ主力艦ノ隻數問題デアリマス。「シアットランド」海戰ハ多數艦ノ不利ヲ明證致シマシタ。「現實ニ何隻ヲ造ルカデナクシテ一艦一艦ニ如何ニ大ナル戰鬪力ヲ集中スルヲ得ルカガ建艦上ノ秘訣デアル」ト云フ「テイルピッツ」ノ主張ハ同海戰ニ於テ確カニ凱歌ヲ奏シタデアリマス。ソレデハ果シテ何隻位ガ適當デアリマセウカト申スニ「シエーア」ハ戰艦十六隻ヲ運用スルノニ餘程ノ困難ヲ感ジテ居リマス。一ノ指揮官ガ意ノ儘ニ進退サセ得ル主力艦ノ隻數ハ三隻三隊若クハ四隊外ニ總旗艦一隻位デハナカラウカト私ハ思ヒマス。隻數ハ之デ制限シ單艦ノ戰鬪力ヲ増加スル方ガ遙ニ有利デアルコトハ最早疑ヒノ餘地ナキモノト信ズルデアリマス。

第六ニハ戰艦ノ備砲問題デアリマス。備砲問題ト申シマシテモ其ノ口徑ヲ増スベキカ否カノ問題デアリマス。現今デハ各國共十六吋砲ヨリ大キナ大砲ヲ持つテ居ラヌデアリマスガ「ドイツ」ハ冒頭デ申シマシタヤウニ十一吋砲デ甘シ威力ノ減少ハ發射速度ノ増加ヲ以テ補ヒ又節約シ得タ重量ハ船體ノ強度トカ防禦力トカニ振向ケヤウトシテ居ルヤウデアリマス。同國海軍將官「マールホルツ」氏ガ最近發表シタ意見ノ一節ヲ左ニ紹介シマス。

『齊射速度ヲ上ゲヤウトシタ爲ニ却ツテ齊射ノ效果ヲ無クスルヤウナコトガ生ジテ來タ。即チ齊射ヲ急速ニ連續的ニ行フ爲ニ最初ノ齊射ガ未ダ目標ニ達シナイ内ニ既ニ第二齊射ガ發射サレルト云フ具合デアル。當時有効射撃ヲ得ル爲ニハ大口徑砲ノ場合ニハ十秒乃至二十秒ノ間隔ヲ置イタ連續射撃ヲ行ツテ居タノデアアルガ之ガ爲ニハ當然砲ノ操作及砲戰指揮ニ非常ニ高イ要求ガ課セラレテ來タノデアアル。材料ニモ亦少ナカラヌ要求ガ課セラレタノデアアツテ砲身、砲架、彈藥運搬裝置ヲ斯ノ如キ速射ニ適スルモノニシナケレバナラナカッタ。ソシテ速射用ノ砲臺ヲ得ヤウト努力シタコトハ重量及經費ノ節約ノ要望ト共ニ理由ノアツタコトデアツテ其ノ譯ハ我國ハ大口徑砲ニ關シテ他國ト比較シテ常ニ劣ツテ居タカラデアアル。衆知ノ如ク英國ハ既ニ一九一六年其ノ最新艦ニハ三十八種砲ヲ又他ノ艦ニハ三十四種三砲及三十種五砲ヲ搭載シ從テ我ニ

十八種砲及三十種五砲ヨリ優ツテ居ツタ。然シナガラ我國ノ口徑上ノ僅カノ彈道學的劣勢ハ大ナル發射速度（一分間發射速度獨三發、英二發）及目標ニ於ケル優秀ナル彈丸効力ニ依ツテ充分ニ償ハレテ居ツタ。節約サレタ重量ハ船體ヲヨリ堅固ニシ、又裝甲ヲヨリ充分ニスル爲ニ利用サレタ。之ガ「スカグラク」ノ海戰ニドウ云フ結果ニナツテ現ハレタカト云フト獨艦ハ英艦ノ砲火ニ依ツテ一隻ダニ沈没サレルニ至ラナカッタノデアアル。「サイドリッツ」及「デルフリンゲル」ハ夫々十七發及二十一發ノ大口徑砲命中彈ヲ受ケタニモ拘ラズ（「サイドリッツ」ハ其ノ上魚雷一發ニ命中サル）戰鬪力ヲ奪ハル、ニ至ラナカッタノデアアル。此ノ兩艦ハ戰列ヲ維持シ得、自力ヲ以テ根據地ニ到着シタ。二十四發ノ大口徑砲命中彈ヲ受ケタ「ルユツツウオ」ニ就テハ乗員ガ同艦ヲ乘リ捨テタノハ夜モ遲クナツテカラデアツテ諸種ノ事情カラ本艦ヲ根據地迄連レ歸ルモノトハ信ゼラレナイヤウニナツタカラデアアル。

速射ニ對スル要求ガ進ンデ全砲戰指揮裝置完成ニ對スル要求トナツテ來タ。大砲ハ最モ困難ナ事情ノ下ニ於テ命中彈ヲ得ナケレバナラナカッタ。味方及敵ノ演習ハ命中能力ヲ成ルベク低下サセナイコトヲ目的トシタ。大ナル射距離、觀測ノ困難、敵及味方艦船ノ高速ト云フ近代戰ノ諸困難ハ砲戰指揮ニ依ツテ突破シナケレバナラナカッタ。從テ砲術士官ハ充分ニ砲戰指揮ヲ行ヒ得、更ニ砲戰指揮ノ組織及技術的補助手段ニ依テ任務ヲ完全ニ遂行シナケレバナラナカッタ。彼ハ敵艦ノ行動及目標ヘノ射撃狀況ノ觀測ト云フ主任務ニ一身ヲ捧ゲルコトガ出來ナケレバナラナカッタ。之ハ平時認メラレテ居ツタノデアアツテ砲戰指揮裝置及射撃方法ハソレニ從ツテ發達シテ行ツタ。又我海軍ニ於テハ夜間射撃モ熱心ニ練習サレタ。非常ニ多數ノ夜間演習ニ於テ砲術士官ハ探照燈操作ト砲戰指揮及砲操作ト彈藥運搬トノ間ノ最モ精密ナ協同作業ニ依ツテノミ解決シ得ルヤウナ問題ヲ課セラレテ居ツタ。斯シテ六十秒ト云フ短時間ニ三個ノ目標ニ向テ發射スルコトガ要求サレテ居タノデアアルガ此ノ六十秒ハ探照燈照射ノ命令ヲ發シテヨリ第三發目ノ發射ガ終ル迄ヲ云フノデアアル。ソシテ此ノ仕事ガ困難デアルト云フコトハ、若シ我々探照燈ガ先ズ目標ヲ發見シテ之ヲ追尾シ、同時ニ砲臺ハ照準ヲ行ヒ、更ニ二回目

標變換ヲ行ハネバナラヌト云フコトヲ考ヘレバ充分諒解スルコトガ出來ル。要求ガ高ケレバ射擊能率ヲ高メルコトハ勿論デアツテ斯シテ我中口徑砲ハ夜戰ニ對シテ充分準備ガ出來テ居タノデアアル。實際ノ夜戰ニ當ツテ其ノ効果ハ素派ラシイモノガアツタノデアツテ恐ルベキ精確サヲ以テ二、三隻ノ敵驅逐艦ガ相前後シテ六秒ノ齊射ニ依テ火災ヲ起シタノデアアル。之ハ英艦側ニ非常ナ驚愕ヲ與ヘタノデアツテ、最モ有利ナ機會ガアツタニ拘ラズ、ソノ水雷戰隊ハ戰果トシテ「ボンメル」ノ破壊ヲ記帳シ得タノミデアツタ。

本海戰ニ參加シタ兩海軍ノ砲數ハ獨逸側大口徑砲二四門、中口徑砲四六七門ニ對シテ英國側ハ大口徑砲四〇二門、中口徑砲二八〇門デアツタ。ソシテ又小砲ダケデ二六〇〇門ガ參加シタ、全體トシテ英國側ノ噸數及人命ノ損害ハ獨逸側ノ約二倍デアツタ。而モ此ノ損害ハ殆ンド専ラ大砲ノ作用ニ依ツタノデアアル。夫故ニ「スカゲラク」ノ海戰記念日ハ海軍砲ノ大記念日デアアルト謂ツテモ謙モ異議ヲ稱ヘルモノハナイデアラウ」云々。

次ニ然ラバ其ノ他ノ各國ハ如何ナル態度ヲ示シテ居ルカト言フニ大體ニ於テ口徑ノ制限ハ希望シテハ居ルヤウデアリマヌガ「ドイツ」ノ如ク自ラ進ンデ口徑ヲ減ラサウトスル程ノ勇氣ナク或一國ガ増加シタナラバ追隨已ムラ得ズト云フ頗ル曖昧ナ態度ヲ持シテ居リマス。尤モ其ノ中デ米國ハ五十口徑二十吋迄ノ巨砲ヲ製作シ得ル工場設備ヲ持ツテ居リマスルノデ口徑ノ増加必ズシモ憂フルニハ足ラヌガ備砲口徑ノ増加ハ必ズヤ艦型ノ擴大ヲ招來シ既ニ太平洋岸及布哇ノ造修施設ノ擴張ヲ行ツテハ居リマスケレドモ早晚地峽運河改鑿問題ヲ惹起スベキコトヲ慮リ輿論ノ指導上消極的態度ヲ執ツテ居ルダケデアルト思ヒマス。然シナガラ假令米國ガ口徑增大ニ決シタトシテモソレハ何等懸念スベキ問題デハナイト思ヒマス。講ズルヲ得ベキ對策ガイクラデモアルノデアリマス。

第七ニハ決勝的判斷ト云フ問題ニ就テデアリマス。斯ウ申シタダケデハ或ハ御判リ惡イカモ知レマセヌガ私ガ冒頭デ「ナボレオン」ガ「戰場デ左スベキカ右スベキカ判斷ニ迷ツタ場合」云々ト申シマシタアレデアリマス。日本海々戰ノ際

ニ東郷司令長官ハ正當ナル決勝的判斷ヲ行ハレテ斷然左十六點ノ方向變換ヲ命令サレタノデアリマスガ「ヒツバー」ハ五月三十一日午後三時三十三分船回頭デ反轉シ「ビーティー」ノ先頭ヲ抑ヘツ、「シエーア」ノ方向ニ引返シマシタ。コレ亦決勝的判斷デアリマス。アノ時「ヒツバー」ハ船ニ回頭スベキデアツタカ船ニ回頭スベキデアツタカモ問題ニナリマヌガ若シ船回頭デ反轉シタトスレバ東郷元帥ノ決勝的判斷ト同様「イギリス」側ニ對シテ一層徹底的ナ打撃ヲ與ヘ得タニ相違アリマセヌ。然シナガラ之ハ決勝的判斷ト云フ點カラ觀レバ第二義的ノモノデアリマス。然ルニ「ジェリコー」ハ大艦隊ノ展開時ニ判斷ヲ誤リ又「シエーア」ハ午後六時三十五分ニモ又同五十五分ニモ同様ノ錯誤ヲ犯シタ爲ニ共ニ決勝ヲ逸シタノデアリマスガ今何故ニ「ヒツバー」ハ決勝的判斷ニ成功シ「ジェリコー」及「シエーア」ハ之ニ失敗シタカラ研究スルト斯様ナ場合ニ遵奉スベキ原則ニ關シテ左ノ如キ斷案ガ下セルト思フノデアリマス。

(一) 先ツ戰略的利害ヲ次ニ戰術的利害ヲ比較研究スルコト

(二) 戰術的利害ガ特ニ顯著ナラザル限リ戰略的利害ヲ獲得スルコトヲ主眼トシテ行動スルコト

兎ニ角右スベキカ左スベキカ之ニ依テ勝ツモ負ケルモ決マルノデアリマス。皇國ノ興廢モ此ノ一瞬ノ判斷ニ依テ一舉ニ決スルノデアリマス。而モ斯様ニ重要ナ判斷ヲ誤ラザランガ爲ニハ戰史ノ研究ガ肝要デアリマス。

第八章 「ジアットランド」海戰ノ教訓ト列國ノ造艦政策

次ニハ「ジアットランド」海戰ノ教訓ト列國ノ造艦政策ト云フ問題ニ就テ申上ゲマス。之モ私ノ一個人ノ意見デアリマヌルカラ、此ノ中ニハ造船造機其ノ他各方面ノ專問家モ居ラレマスノデ、私ガ斯ウ云フコトヲ申上ゲルノハ誠ニ烏辭ガマシク感ジマスルガ、兎ニ角之ハ私ガ「ジアットランド」海戰史ヲ讀ミマシテ感ジタコトデアリマスルカラ、一應オ聽キテ願ヒ度ノデアリマス。

「ジアットランド」ノ海戦以後ドウ云フ風ニ列國ハ造艦政策ヲ進メツ、アルカ將又列國ニシテ若シ「ジアットランド」海戦ノ教訓ヲ尊重スルナラバ將來果シテ如何ナル造艦政策ヲ採ルデアラウカト云フコトニ關シ私見ヲ開陳シ度ト思ヒマス。

(一) 戰艦

(イ) 戰艦ハ主砲ヲ一箇所ニ集結シテ裝備シヤウト云フ傾向ガ見エルノデアリマスソレハ「ジアットランド」海戦後ニ計畫サレタモノ先ツ「ダンカーク」デアリマス。之ハ未ダ出來上ツテ居リマセンケレドモ、兎ニ角「ジエーン」ノ「ファイティング・シツプ」ニ出テ居リマス圖面等ヲ見マスルト、前甲板ニ四聯裝砲塔二基ニ三十四徑砲ヲ八門積ンデ居リマス。ソレカラ「ネルソン」ハ九門ノ四十一徑砲ヲ同ジク前甲板ニ裝備シテ居リマス。コレ亦集結主義ヲ採ツテ居リマス。之ハ防禦ヲ非常ニ確實ニシナケレバナラヌト云フ點カラ斯ウ云フ風ニシタモノト思ハレマス。戰艦ニ果シテ何門ノ大口徑ヲ裝備スルカト申シマスルニ近來ハ三聯裝砲塔ガ非常ニ人氣ヲ博シテ居ルヤウデアリマスコレガ餘リ多數ヲ積ミマスノハ不利トサレテ居リマス。サリトテ一齊射彈ハ三發ガ最小限度デアリマスカラ聯裝ナラバ四基、三聯裝ナラバ三基ヲ積ムノガ普通ラシク考ヘラレマス。

砲塔ハ天蓋ガ從來前方ニ傾イテ居ツタノガ著シク水平ニナツテ參リマシタガコレ亦防禦力ヲ大ナラシメンガ爲デアリマス。恐ラク將來ハ各國共砲眼孔ヲ小ニシ前楯ヲ厚ク高クシ寧ロ天蓋ヲ後方ニ傾斜サセルヤウニナリハシナイカト思ヒマス。ソウスレバ大落角彈ノ穿入ニ對スル抵抗力ヲ増シマスカラ多少薄クシテモ良イコト、ナリ結局重量ヲ節約スルコトガ可能トナルノデアリマス。現在ノ砲塔ハ防禦力ノ増加上及重量ノ節約上改良ヲ要スルト思ハレル點ガ未ダ多クアルノデアリマス。

「ジアットランド」海戦ニ鑑ミレバ將來副砲ハ藥莖式デナク藥莖式ノ最大砲ヲ採用スルコト、ナリマセウ。

夜間敵驅逐艦ノ擊攘法ハ「ドイツ」流ヲ有利トシマスレバ必ズシモ六吋砲デナクテモ良イカラ發射速度ノ大キイ五

吋砲ヲ採用スルヤウニナリハシナイカト思ヒマス。ソウスレバ寧ロ五吋高角砲ヲ流用シタ方が有利デアリマスカラ恐ラク同砲ハ益々多數搭載サレルニ至ルノデアリマスマイカ。五吋高角砲ヲ聯裝砲塔ニ裝備スレバ片舷優ニ五乃至六基(十乃至十二門)ハ裝備出來マセウ。尙探照燈ハ晝間戰闘中破壞サレル虞ガアリマスカラ將來ハ各國共益々以テ星彈ト消焰火藥ヲ主用スル夜間射撃ニ重キヲ置クニ至ルコト、思ヒマス。

(ロ) 「ジアットランド」海戦ニ於テハ主力艦ハ機械ヤ罐ニ敵彈ヲ受ケタ爲ニ行動不能ニ陥ツタリ又ハ致命傷ヲ被ツタリシナカツタノデアリマスガ之ニハ左ノ如ク種々理由ガアルト思ヒマス。

(一) 汽罐ヤ主機械ガ小型トナリ水線下ニ裝備サレルヤウニナツタコト。

(二) 汽罐ト主機械ガ分離シテアリ兩者ガ同時ニ損害ヲ被ラナイコト。

蒸氣機關ハ右ノ如キ特徴ヲ持ツテ居リマスカラシテ内火式機關ハ非常ニ輕量ニナリマシテモ其ノ儘デハ主力艦推進用ニ適セズ寧ロ「デーゼル」・エレクトリック・ドライヴ」式トスベキモノデアラウト思ヒマス。

戰後「ドイツ」デハ「ドイツチランド」級ノ戰艦三隻ニ内火機關ヲ裝備シタニ拘ラズ目下建造中ノ二六、〇〇噸級ニハ再ビ蒸氣機關ヲ裝備スルコト、致シマシタガ之ハ決シテ機關ノ効率ダケガ原因デハナカラウト思ハレルノデアリマス。

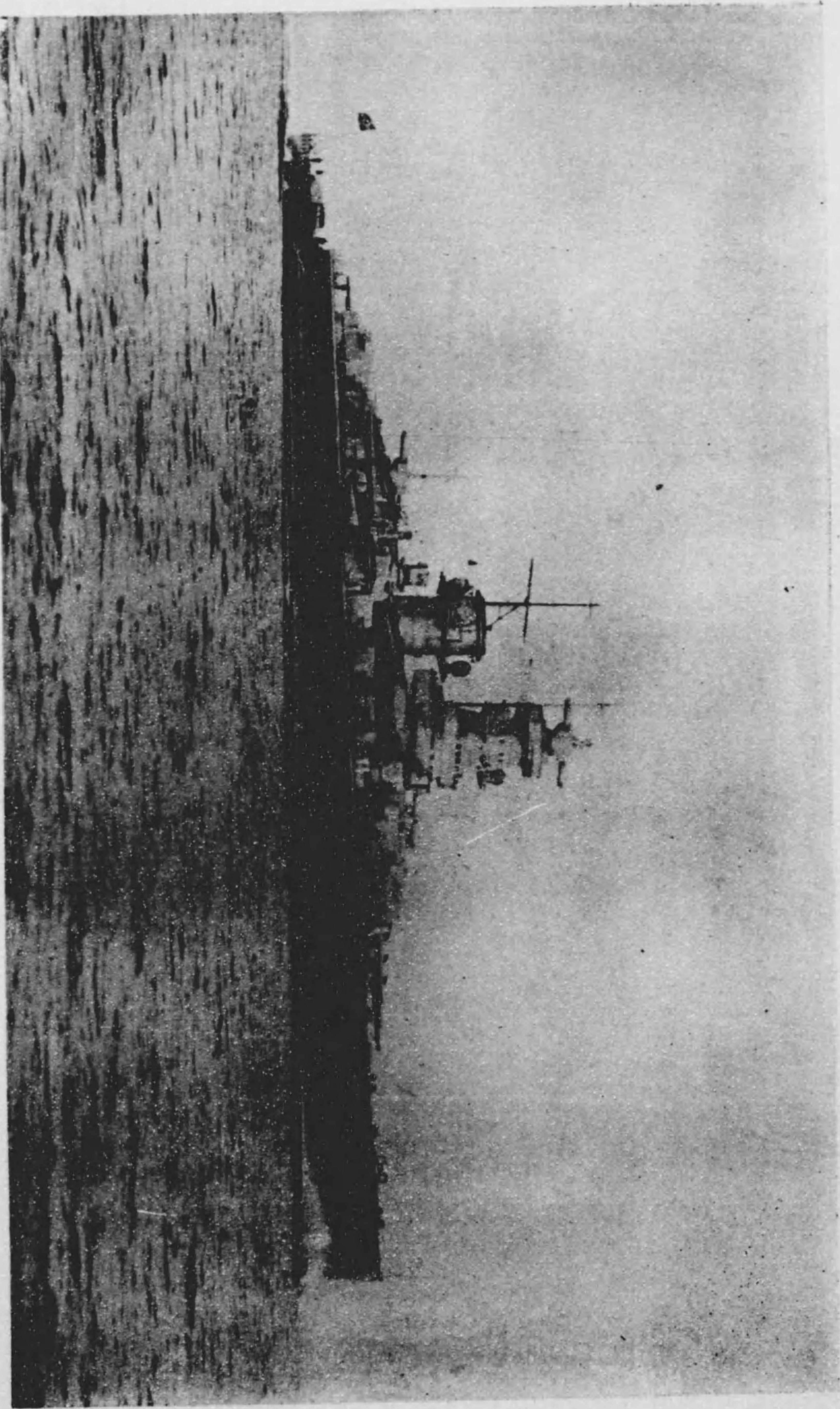
(ハ) 外貌即チ敵ニ對スル目標面ヲ出來得ルダケ小サクシヤウトスル傾向ガアリマス。從來米國ノ戰艦ハ前橋及大橋ニ同高同大ノ橋樓ヲ持ツテ居リマシタガ最近大橋樓ヲ廢止シマシタ。豫備砲戰指揮所ハ一層低イ場所ニ設ケテモ差支ナイカラデアリマス。艦橋ハ非常ニ小型ニナリツ、アリマス。一體艦橋ハ中心支柱式カラ段々發達シテ周縁支柱式ニナリツ、アルモノト思ヒマス。後者ニハ圓錐形式ト圓塔形式トガアリマス。「ドイツ」戰艦「アドミラル・グラーフ・スベール」級ノ艦橋ハ圓錐形ヲ又英ノ「ネルソン」、佛ノ「ダンカーク」及米ノ「ニュー・メキシコ」ノモノハ

圓塔形ヲ成シテ居リマス。震動ヲ減ズル利益ガアル許リデナク多數ノ支柱ヲ樹テルヨリモ簡單デ輕量デアリマセウ。外周ニ約二吋ノ鋼板ヲ展張スレバ機銃彈ヤ小型爆彈ニ對シテ安全デアラウト思ヒマス。頂部ハ夫ノ鐵兜ノ如キ格好ニスルノガ良イト思ヒマス。將來ハ各國共斯様ナ型式就中圓錐形式ヲ採用スルニ違ヒアリマセウ。空中線用ノ柱モ段々低クナリツ、アルヤウデアリマス。

現在ハ各國共後艦橋ヲ豫備砲戰指揮所ニ充テ、居リマスガ無防禦ニシテ置イテハ主指揮所ガ破壊サレタ場合ニ果シテ役ニ立ツカドウカ疑問デアリマス。若シソウダトスレバ徒ラニ目標面ヲ大キクスルコトニナリマスカラ結局後艦橋ハ廢セラレ其ノ重量ヲ前艦橋ニ持ツテ行キ司令塔ヲ少シク高クスルト同時ニ之ヲ擴大シテ豫備指揮所トスルコトニナリハシナイカト思ヒマス。尙艦橋ヲ普通航海用ト戰闘用トニ分ケテ居ル海軍モアルヤウデアリマスガ之ハ目標面ヲ小サクスルト云フ點カラ觀テモ重量輕減ト云フ點カラ言フツテモ不利デアリマスカラ恐ラク將來ハ兩者兼用ノ一種トナルデアリマセウ。斯シテ節約シ得タル重量ヲ以テ司令塔ヲ一層大キク高クシ種々ノ方面ニ活用スルノガ得策デナイカト思ヒマス。

(二) 現在戰艦ハ最大四機ノ飛行機ヲ積ンデ居リマスガ場合ニ依ツテハ敵主力艦ニ對シテ直接攻撃ヲ加ヘナクテハナラヌノミナラズ彈着觀測、敵觀測機ノ驅逐若ハ上空直衝等種々用途ガアリマスカラ將來ハ益々多數ヲ搭載スルコトニナリマセウ。

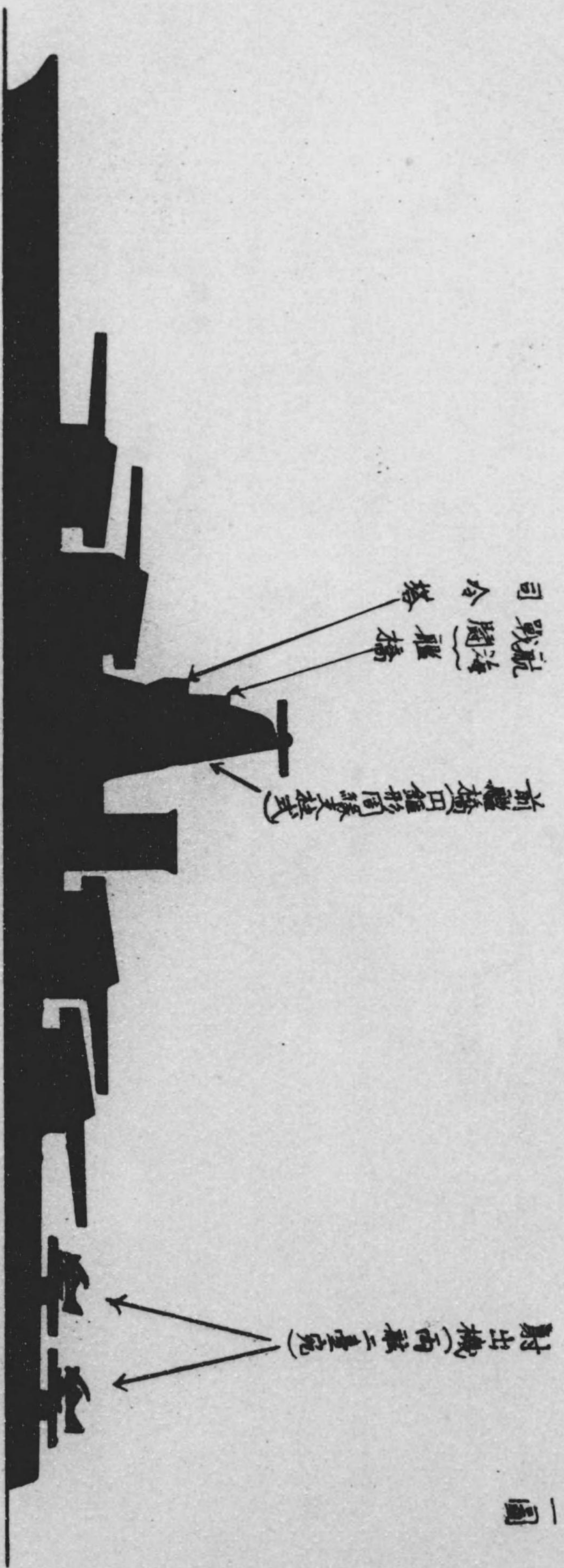
(ホ) 防禦法ハ從來ヨリモ一層集中的即チ「厚ク狭ク」ト云フ主義ヲ採ルヤウニナリマセウ。飛行機カラ爆撃及水中爆撃ニ對抗スル必要上、甲板防禦ト水中防禦ハ將來益々嚴重ニナルデアリマセウガ水線甲帶ハ現在以上厚クナルコトハアリマスマイ。何處カデ重量ノ節約ヲシナケレバナラヌカラデアリマス。尙各國共煙室ト煙突ノ基脚ニ對シテハ一層嚴重ナ防禦ヲ施スデアリマセウ。



Panzererschiff „Admiral Graf Spee“

A. Weiser

第七十一圖



(v) 速力ト旋回力ハ互ニ兩立シ難イ性能デアリマスガ種々ノ點カラ觀テ旋回力ノ大キイコトハ必要デアリマスカラ速力ハ各國二十五乃至三十節位デ甘ンズルノデハナイカト思ヒマス。然シナガラ潜水艦ノ最大水上速力ガ増大スルニ伴ツテ恐ラク増大スルデアリマセウ。

(t) 排水量ハ無限ニ増大スルカト言フニ之ニハ種々ノ不利ヲ伴ヒマスカラ其處ニハ自ラ制限ガアリ増大シタトコロデ最高五万噸位デハナイカト思ヒマス。

(f) 却說以上續述致シマシタトコロヲ總テ取入レマスト將來ノ戰艦ハ大體第七十二圖ノ如キモノトナラウカト思ヒマス。
(二) 巡洋戰艦

主力艦トシテハ持久力ニ對スル要求ガ益々大デアリマスカラ恐ラク巡洋戰艦ハ戰艦ト大差ガナキモノトナリハシナイカト思ヒマス。然シナガラ現存ノ巡洋艦ヲ如何ニ使用スベキヤト云フコトハ自ラ別問題デアリマス。

(三) 航空母艦

航空母艦ニハ私ガ申ス迄モナク大型、中型及小型トノ三種類ガアリマスルガ、世界列國ハ段々ト中型航空母艦ヲ使用スルヤウニナツテ來ルノデハナカラウカト思ヒマス。ソレハドウ云フ理由デアルカト言ヒマスルト、私ノ判斷デハ成ルベク多數ノ飛行機ヲ搭載シナケレバナラス。之ハ大型デナケレバ出來ナイコトデアリマス。ソレカラ甲板三分主義ヲ採用シ得ルコトガ必要デアリマス。之ニモ成ルベク甲板ガ長ケレバ良イノデアリマスカラ、八百呎モアリマスコロノ「レキシントン」ヤ「サラトガ」モ必要デアリマセウ。又速力航續力共ニ大キクナケレバナラス。コレ亦大型デナケレバ備ヘラレナイコロノ性能デアリマス。併シナガラ航空母艦ハ分離別動ヲシナケレバナラヌカラ多數ヲ必要トシマス。殊ニ前述ノ如キ航空母艦團ヲ使用スルコトニナリマスドウシテモ多數ヲ必要トシマス。ソレニハ小サイ航空母艦デナケレバナラス。又防禦力ノ點カラ申シマスルト甲板面積ガ餘リ廣イト云フコトハ危險デアリマス。ソレ

故ニ甲板面積ト云フモノハ三分ノ出來ル範圍デ最小デ宜シイ。ソレカラ又防禦力ノ點デアリマスルガ、之ハ水中防禦力ヲ大キクシナケレバナラヌ。ソレニハ餘リニ小サクテハイケナイ。斯ウ云フ風ナ矛盾シタトコロノ各種ノ要求ガアリマスルカラ、之ヲ適當ナ割合ニ持タセル爲ニハドウシテモ中型航空母艦、一万五千噸乃至二万噸ノ航空母艦ガ將來益々多ク採用サレル傾向ニナツテ來ハセヌカト思ヒマス。水上防禦ニ就テハ恐ラク大ナル進歩ハナカラウト思ヒマス。少シ位防禦シタトコロデ五十歩百歩デアルカラデアリマス。水中防禦ノ點ニ至リマスルト恐ラク夫ノ「プロテクトイーヴ・レーヤー」式ガ採用サレルダラウト思ヒマス。之ハ普通ノ中型航空母艦デモ可能デアリマス。ソレカラ兵裝ハ成ルベク多數ノ高角砲ヲ搭載スルニ止マルデアラウト思ヒマス。ソレカラ航空母艦ノ甲板ニ木板ヲ張レバ乾キマスルト燒夷彈デモ投下サレマシタ場合直グ燃エテ了ヒマスカラ熱帶地方ノ作戰ニハ非常ナ危險ヲ伴フデアリマスガ更ニ寒イ方面ニ行動致シマスル場合ニハ雪ガ降ツテ凍ルノデ着發ニ非常ニ困難ヲ感ズルラシイデアリマス。其ノ場合ニ米國海軍ノ航空母艦ノ如ク鋼板デ出來テ居リマスト裏面ニ加熱裝置ヲ取附ケルコトガ出來マス。ソウシマスルト降雪ガアツテモ加熱裝置ヲ働カセレバ直グソレガ解ケテ了ヒマスカラ、何時デモ飛ベルト云フコトニナリマス。「アレウト」群島ノ南方ハ非常ニ暴風雨ガ多ク又霧ガアリ天候ガ惡イデアリマスルガ、北ニナリマスト全クカラツト晴レタ日ガ多イサウデアリマス。果シテソウデアリマスレバ敵艦隊ノ進路ハ決シテ一本デハナイト云フコトガ考ヘラレルデアリマス。寒熱兩方面ノ作戰ニ適スル如ク最初カラ充分ニ考慮ヲ拂ツテ置ク必要ガアラウト思ヒマス。尙速力ノ點デアリマスガ米國海軍デハ戰艦ト協同動作スルモノニハ之ヨリモ約十節ノ優速ヲ與ヘテ居ルヤウデアリマスガソウスルト二十五節ノ戰艦ニ對シテハ三十五節ナケレバナラヌコトニナリマス。然シナガラ巡洋艦ハ戰艦ト異ナリ航空母艦ニ對シテ協同スベキモノデアリマスカラ航空母艦ハ巡洋艦ト同速デ良イ譯デアリマスガ航空母艦ハ前述ノ如ク獨自ノ必要モアリマスカラ出來得ル限り高速トスルノガ妥當デアルヤウニ考ヘマス。

(四) 八吋砲巡洋艦

八吋砲巡洋艦ハ歐洲ノ諸海軍デハ餘リ重要視シテ居ラヌヤウニ思ヒマスガ米國海軍ダケハ非常ニ之ヲ持囀シテ居リマス。何故ニ米國海軍デ持囀シテ居ルカト言フト商船ニ裝備シ得ザルトコロノ最小砲デアル八吋砲ヲ搭載スルコトトソレカラモウ一ツハ艦型ガ餘リ大キクナイカラシテ隻數ノ多數ヲ必要トスル場合ニモ此ノ位ナラバ要求ニ應ズルコトガ出來ルコトガ原因ヲ成シテ居ルデアリマスガ特ニ米國海軍ガ八吋砲巡洋艦ヲ重用スル所以ノモノハ小航空母艦團ヲ編成スルノニ最モ適當デアルト考ヘテ居ルカラデアリマス。何故ニ小航空母艦團ヲ編成スルノニ適當デアルト言ヘバ砲力デハ主力艦以外ニ恐ル、モノガナイ許リデナク適當ナル隻數ガ得ラレルカラデアルト思ヒマス。私モ八吋砲巡洋艦ハ棄テ難イ艦種デアルト思ヒマス。將來ハ一萬噸乃至一萬二、三千噸デ而モ六吋及ソレ以下ノ大砲ニ對シテハ充分ニ防禦シテアルモノニナリハシナイカト私ハ思ヒマス。

ソレカラ八吋砲巡洋艦ハ敵飛行機ノ攻撃ヲ受ケ易イ前線ニ行動スルノデアリマスカラ相當ニ甲板及水中防禦ヲ嚴重ニスルノデハナイカト思ヒマスガ「アストリア」級以後ノ米國八吋砲巡洋艦ハ三吋鋼板二枚ト云フ驚クベキ程嚴重ナ甲板防禦ヲ施シテ居リマス。米國海軍デハ八吋砲巡洋艦ニハ魚雷發射管ヲ裝備シテ居リマセヌガ之ハ砲戰中魚雷頭部ノ誘爆ヲ惹起スルコトヲ恐レタ爲デアラウト云フ説ガアリマス。然シナガラ「ジアットランド」海戰中魚雷頭部ガ誘爆ヲ起シタト云フ例ハナイヤウデアリマスシ且又米國海軍デハD火藥ハ絶對ニ誘爆ヲ起サナイト謂ツテ居ルデアリマスカラ何か外ノ理由デアラウト思ヒマス。然シナガラ理由ノ如何ヲ問ハズ八吋砲巡洋艦カラ魚雷兵裝ヲ除去スルノハ得策デハナイト思ヒマス。如何ニ米國海軍デアレバトテ造艦政策ノ錯誤ヲ犯サナイ譯デアリマスマイ。速力ハ列國共三十四、五節デ甘ズルデアリマセウガ旋回力ヲ大キクスルコトニハ特ニ力ヲ用ヒルコト、考ヘマス。

(五) 六吋砲巡洋艦

米國海軍デハ輪型陣用トシテ重要視シ大型ノモノヲ盛ンニ建造シテ居ルヤウデアリマスガ本艦種ハ任務上カラ考ヘ列國共六乃至七千噸位ノ中型ヲ適當ト觀テ居ルノデハナイカト思ヒマス。砲裝トシテハ聯裝砲塔四基若クハ三聯裝砲塔三基ガ一般ニ用ヒラレテ居ルヤウデアリマスガ魚雷發射管及飛行機ヲ成ルベク多數裝備シヤウトスル傾向ガアリマス。「ジアットランド」海戰ノ實績ハ速力ヨリモ寧ロ旋回力ノ必要ナルコトヲ立證シテ居ルモノト思ヒマス。尙驅逐艦カラノ砲擊及小型爆彈ニ對抗スル丈ノ防禦ハ必要デアリマス。

(六) 驅逐艦

現在列強ハ二、〇〇〇噸附近ノ嚮驅及一、五〇〇噸級ノ驅逐艦トヲ建造シテ居ルノデアリマスガ當分此ノ趨勢ニ變化ハナカラウト思ヒマス。最近ハ速力ガ非常ニ増加シ四十節ニ上ルモノガアリマスガ「ジアットランド」海戰ノ教訓ニ依レバ二十五節ノ戰艦ニ隨伴スル爲ニハドウシテモ三十五節以上ノ速力ヲ必要トスルデアリマセウ。砲裝ニ就テハ成ルベク大キナ大砲ヲ裝備シヤウトスル傾向ガアリマスガ五吋砲以上ニナルコトハアリマスマイ。魚雷兵裝ニ就テハ三聯裝ニ乃至三基又ハ四聯裝ニ基ヲ首尾線上ニ裝備スルコトニナツタヤウデアリマス。

(七) 潜水艦

潜水艦ハドウカト申シマスニ、恐ラク索敵用、艦隊隨伴用及沿岸防禦用此ノ三ツノ形式ガ採用サレルコト、思ヒマセウ、最後ノ沿岸防禦用ハ索敵及艦隊隨伴用ノ古クナツタモノヲ使ヘバ良イノデアリマスカラ、將來建造サレルモノハ索敵用ト艦隊隨伴用ノ高速潜水艦ト云フコトニナリハセウカト思ヒマス。前者ニ對シテハ高速ヨリモ寧ロ航續力ガ必要デアリ後者ニ對シテハ航續力モサルコトナガラ速力ガ一層重要デアリマス。而シテ兩者ニ對シテ必要デアルト思ハレルコトハ同時ニ發射シ得ル魚雷ノ數ヲ成ルベク多クスルコトデアリマス。

冒頭ニ於テ私ハ世界戰爭中「ドイツ」ハ地理的ニ敵國カラ取圍マレテ居ル關係カラ天氣豫報ノ資料ヲ得ルコトガ出來

ナイデ非常ニ不利ヲ招キ飛行機モ活躍スルコトガ出來ナイ。飛行船モ充分利用スルコトガ出來ナイ斯ウ云フ風ニナツタト申シマシタガ此ノ點ハ餘程吾々ハ注意シナケレバナラスノデアリマシテ若シ「ドイツ」ガモウ少シ充分ニ潜水艦ヲ持つテ居ツテ、ソレニ飛行機ヲ搭載シテ大西洋ノ各地ニ其ノ潜水艦ヲ配置シ、或高サ迄上昇サセテ實際ニ天氣豫報ノ資料ヲ取ツテソレヲ報告スルト云フコトニナツテ居ツタナラバ非常ニ良カッタラウト思ヒマス。將來ハ潜水艦ガ氣象觀測用ニ使用サレルト云フヤウナコトモ或ハ列國海軍ノ複雜シタ作戰ノ背後ニ於テハアルカトモ思ハレルノデアリマス。

以上叙述致シマシタコロハ頗ル獨斷的デハアリマスガ更ニ私ハ方今列國海軍殊ニ海洋海軍ヲ以テ自任スル諸海軍ノ造船政策ハ前述致シマシタコロノ渡洋接敵陣列ノ完成ニ向ツテ動キツ、アルモノト觀察シテ居ルノデアリマス。

結

言

(列國海軍々備ノ將來)

終ニ臨ミ一言致シ度ノハ將來世界各國ノ軍備ハ果シテドウナルカト云フコトニ就テハアリマス。本講話ニ於テハ「ジアットランド」海戰ノ研究ハ隨分詳細ニ實施致シタトハ思ヒマスガ斯様ナ大問題ニ就テ斷案ヲ下スニハ私ノ研究モ學識モ將又經驗モ未ダ不充分デアリマス。

然シナガラ前述シタコロヲ綜合致シマスレバ左ノ諸項ガ明カニナルト思フノデアリマス。

- (一) 海軍兵力ハ先制的攻撃兵力ト決戦兵力トニ分ルルト同時ニ兩者ノ間ニハ密接ナル關係ガアルコト。
- (二) 航空兵力ハ前者ノ主要部分デアルト同時ニ後者ノ一部デアルコト。
- (三) 戰艦群ヲ核心トシテ編成サレタ艦隊ハ先制的攻撃兵力ノ編成及運用上缺クベカラザル要素デアルト同時ニ決戦兵力ノ

主要部分デアルコト。

ソレ故ニ海軍々備ヲ齊整スルト言ヒマシテモソレハ結局右ニ掲ゲタ兩種ノ兵力ヲ齊整スルコトニナルデアリマシテ如何ニシテ兩兵力ヲ大ニスルカト云フコトガ列國海軍就中海洋海軍ヲ以テ任ズル諸海軍間ニ於ケル軍備競争ノ根本問題ニナル譯デアリマス。列強ノ海軍政策モ亦此ノ目的ニ進ミツ、アルモノト思ヒマスガ最近特ニ重要視セラル、ニ至リマシタノハ其ノ陸軍機タルト民間機タルトヲ問ハズ苟モ飛行機デアル以上之ヲ海戦ニ參加サセルコトデアリマス。現ニ米國デハ參謀本部空軍ヲ設ケテ有事ノ際ニハ極メテ多數ノ陸軍機ヲ海戦ニ參加サセウツシテ居リマス。而モ斯様ニ致シマスルニハ地理的ニ惠マレテアルコトガ絶對必要デアリマス。新聞情報ニ依リマスト最近米國デハ中部太平洋ニ於ケル島嶼ヲ開發シテ陸上航空基地ヲ設置シツ、アルト云フコトデアリマスガ之ハ吾々トシテ大ニ參考トスベキ事項デアルト思ヒマス。若シ一國ノ地理的情勢ニシテ航空兵力ノ全部ガ該國領土及領海ノ隅々迄隨時移動スルコトヲ許スガ如キモノデアリマシタナラバ斯様ナ國家ノ海上作戰ハ極メテ有利ニ實施スルコトガ出來ルデアラウト思フノデアリマス。

之デ私ノ講演ヲ終リマスルガ、今マデ十數時間ニ亘リマシテ長イ間皆様ノ御清聴ヲ煩ハシマシタコトニ對シマシテ厚ク御禮ヲ申上ゲマス。

(第四講終
皇紀二五九六年四月二十一日)

(大尾)

附録第二

「ジアットランド」海戦ニ參加シタル主力艦ノ特徴
一、「イギリス」側

艦名	速力(節)	砲		舷側	甲(吋)
		主	大サ(吋)		
「キング・ジョージ」五世	二一・五	一〇	一三・五	四五	一二
「エー・ジャック」	"	"	"	"	"
「セント・ユリオン」	"	"	"	"	"
「エー・リオン」	二二	"	"	"	"
「オラ・イオン」	"	"	"	"	"
「モナーク」	"	"	"	"	"
「コンクエラ」	"	"	"	"	"
「サン・ダラ」	"	"	"	"	"
「アイアン・デューク」	"	"	"	"	"
「ローヤル・オーク」	二三	八	一五	四二	一三
「シユバルド」	二〇・五	一〇	一二	四五	一一
「キアナ」	二二・五	"	一四	"	九

「フ オン ・デ ア ・タ ン」	「モ ル ド ト ケ」	「サ イ ド リ ツ ケ」	「デ ル フ リ ン ゲ ル」	「ル ユ ツ ツ ウ オ」
"	二五	"	"	二六・五
八	"	一〇	"	八
"	"	一一	"	一二
四五	"	"	"	五〇
九	"	一一	"	一二
"	"	"	"	"

「シ ユ レ ス ウ イ グ ・ホ ル ス タ イ ン」	「シ ユ レ ジ エ ン」	「ハ ン ノ フ ア ー ン」	「ボ ン メ ル ン」	「ヘ ツ セ ン」	「ド イ ツ チ ラ ン ド」	「ヴ エ ス ト フ ア レ ン」	「ナ エ ツ サ ウ」	「ラ イ ン ラ ン ド」	「ボ ー ゼ ン」	「オ ル デ ン ブ ル グ」	「ヘ ル ゴ ラ ン ド」	「テ ユ ー リ ン ゲ ン」	「オ ス ト フ リ ー ス ラ ン ド」	「フ リ ー ド リ ヒ ・デ ア ・グ ロ ツ セ」	「ブ リ ン ツ ・レ ー ゲ ン ト ・ル イ ボ ル ド」	「カ イ ゼ リ ン」
"	"	"	"	"	一八	"	"	"	一九・五	"	"	"	二〇・五	"	"	"
"	"	"	"	"	四	"	"	"	"	"	"	"	一二	"	"	"
"	"	"	"	"	一一	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	四〇	"	"	"	四五	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	九・五	"	"	"	"	"	"	"	一一・五	"	"	四
"	"	"	"	"	三	"	"	"	"	"	"	"	三	"	"	"

附録第三

「ジアットランド」海戦ニ於ケル死傷者
一、「イギリス」側

艦名	士		官		下士	
	死	傷	捕虜	死	傷	捕虜
「マールボラウ」						
「コロツサス」						
「バール」						
「ヴェリアン」						
「ウオーアスパイト」						
「マラ」						
「ラインセス・ローヤル」						
「クウイン・メリー」						
「タイン・ガ」						
「インデファタイガブル」						
「インヅインシブル」						
合計	六一	五七	二	一、二〇九	九六〇	九六五

艦名	士		官		下士	
	死	傷	捕虜	死	傷	捕虜
「サバン」						
「ダブ」						
「チエスタ」						
「デフエン」						
「ウオリア」						
「ブラック・プリンス」						
「キヤリオン」						
「デフエン」						
「テイベラ」						
「ブロー」						
「ボロ」						
「スピット」						
「アード」						
「フオーテ」						
「スバウ」						
「シヤ」						
「アカ」						
合計	一七	四	四	一七四	八四九	三五

「ナ グ エ ス ト フ ア レ ン」	「ボ ン メ ル ン」(沈)	「シ ユ レ ジ エ ン」	「シ ユ レ ス ウ イ ツ グ ・ ホ ル ス タ イ ン」	「ケ ー ニ ツ ヒ」	「グ ロ ツ セ ル ・ ク ユ ー ル フ ア ル ス ト」	「マ ー ク ・ グ ラ ー ク」	「カ イ ザ ー」	「サ イ ド リ ツ」	「モ ル ト ケ」	「デ ル フ リ ン ゲ ル」	「フ オ ン ・ デ ア ・ タ ン」	「ル ユ ツ ツ ウ オ」(沈)	「ビ ラ ラ」	「フ ラ ン ク フ ル」	「ウ イ ス バ ー デ ン」(沈)
二	七				三			五		一	一	五			二
					一	一		四		二	三	五		一	
一	七	一	三	四	二	一	一	九	一	一	一	一	四	二	一
一	七	一	三	四	二	一	一	九	一	一	一	一	四	二	一
一	七	一	三	四	二	一	一	九	一	一	一	一	四	二	一

九

「ラ イ ン ラ ン ド」	「オ ス ト フ リ ー ス ラ ン ド」	「オ ル デ ン ブ ル グ」	「オ ン ス ロ ー」	「ベ ン タ ー」	「ノ ー マ ツ ド」(沈)	「ネ ス タ ー」(沈)	「オ ン ス ロ ー」	「ネ ツ サ ー」	「キ ヤ ス タ ー」	「タ ー ブ レ ン ト」(沈)	「ム ー ア サ ム」
四											
一	三										
一	四	一									
一	四	一									
一	四	一									

二、「ドイツ」側

計	「オ ン ス ロ ー」	「ベ ン タ ー」	「ノ ー マ ツ ド」(沈)	「ネ ス タ ー」(沈)	「オ ン ス ロ ー」	「ネ ツ サ ー」	「キ ヤ ス タ ー」	「タ ー ブ レ ン ト」(沈)	「ム ー ア サ ム」
三二八									
二五									
一〇									
五、七六九									
四八五									
一六七									

八

LE-4A
-89

